

次々と明らかになってきた加熱式タバコ健康影響

松崎 道幸 氏 道北勤医協ながやま医院院長
一般社団法人日本禁煙学会理事

加熱式タバコプロモーションは、世界の人々をニコチン依存症にして、大儲けしたいというグローバルタバコ産業の戦略の一つです。

タバコ産業は、ニコチン依存症にとらわれる人々をつなぎ留め、若い人々をニコチン依存症に誘い込んで、ニコチンタバコ製品の販売促進を続けるために、加熱式タバコを売り込んでいます。紙巻きタバコよりも臭いが少ないからいいのではないかという受け止めを利用して、タバコ・ニコチン製品でさらに大儲けをしようと画策しています。

これまで明らかになったエビデンスを紹介します。長期間の観察でなければわからないガン、心血管疾患リスクについては、まだ確定的なことは言えませんが、下記の諸所見を活用して、今後予想される健康被害を予想できると思います。

紙巻きタバコをやめて加熱式タバコにスイッチしても：

- ◆発ガン性と習慣性のあるニコチン、発ガン物質NNAL、遺伝子障害物質のm 7 Gua、ホルムアルデヒド、アクロレインはほとんど減らなかった
- ◆子供の動脈硬化リスクマーカーの動脈硬化指標(FMD)は全く改善しなかった
- ◆児と母体の命を脅かす早期胎盤剥離リスクは紙巻きタバコよりも大きかった
- ◆紙巻きタバコの受動喫煙で増える子どもの虫歯もほとんど減らなかった
- ◆禁煙手段として、加熱式タバコにスイッチしても、紙巻きタバコを止めることはできなかった
- ◆紙巻きタバコ使用に伴ううつ状態が改善することはなかった
- ◆紙巻きタバコをやめたなら気管支喘息の発作が減るだろうと思っていたが、かえって悪化した
- ◆(受動喫煙によると思われる)アトピー性皮膚炎の改善は見られなかった

松崎道幸先生ご略歴

【略歴】

北海道稚内市出身

1975年 北海道大学医学部卒業。

同年 北海道大学医学部第1内科学教室(国立札幌病院血液内科、市立旭川病院循環器内科、江別市立総合病院内科、札幌市南保健所における勤務歴あり)

1984年 深川市立総合病院内科部長

2014年7月より道北勤医協旭川北医院院長。現在同ながやま医院院長

【専門分野】

呼吸器内科・禁煙教育・禁煙指導・喫煙関連疾患の疫学

【主な活動】

・日本禁煙学会理事(受動喫煙対策委員・新型タバコ対策委員・英語文献翻訳委員会委員)

・北海道反核医師の会 運営委員

・医療九条の会・北海道 幹事長

・厚生労働省「喫煙と健康問題に関する検討会」委員として「新版喫煙と健康」における受動喫煙の慢性影響に関する報告書の作成にあたった(2002年)。

Memo
